

コロナ禍の中で学生の理解・納得を得るための大学の工夫例①

芝浦工業大学

(東京都・私立大学)

オンライン授業の質向上のため、教職学協働で努力

教職学協働でオンライン授業を設計し継続的に改善

- ・コロナ禍での遠隔授業への備えとして、**オンライン授業の質の向上**を図るため13回の研究会を実施し、継続中。
- ・教職員のみでなく、**学生とも協働**し、学生の声も取り入れながら、質の高い学修機会の確保のために継続的改善。

オンラインでの反転授業の実施例



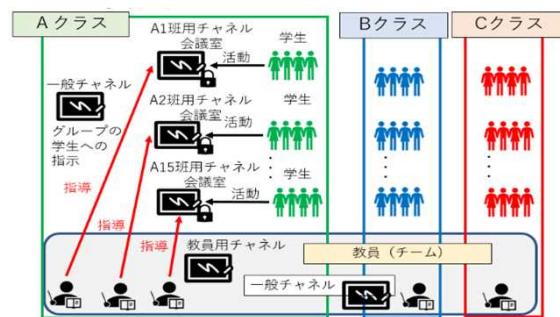
【教職協働での研究会でのテーマの例】

- ✓反転授業の実施方法
- ✓遠隔授業での学修成果の評価の方法
- ✓オンラインでのPBL(プロジェクト型学習)や研究室の運営方法
- ✓障がいをもった学生への合理的配慮 等

オンラインでの大規模PBLを実施

- ・3つの大教室、46班のディスカッション用の小部屋、教員の協働作業用の仕組みを全てクラウド上に構築して、**15人の教員と500名の学生によるオンラインPBL(問題解決型)の授業**を準備、実施、プレゼンテーション、成績評価の全てをオンラインで実施。

オンラインでの大規模PBL実施例(500名履修)



※その他の取組について：<http://edudvp.shibaura-it.ac.jp/newsletter-12-2/>

聖心女子大学

(東京都・私立大学)

「ひとりも取り残さない」学生に寄り添う対応

学長メッセージに込められた新入生への配慮

「11月6日(金)からは、これまで**キャンパスに来る機会が少なかった1年次生**にも、ごく一部ではありますが、**キャンパスにて学習できる授業を用意**できることになりました。もちろん、従来通り、オンラインでの受講も可能です。成績評価に有利、不利はありませんので、それぞれの環境に合わせ、各自の判断で受講の形式を選ぶことができます。今後も皆様のご理解とご協力を得ながら、「**ひとりも取り残さない**」未来に向け、歩み出したいと念じております。」

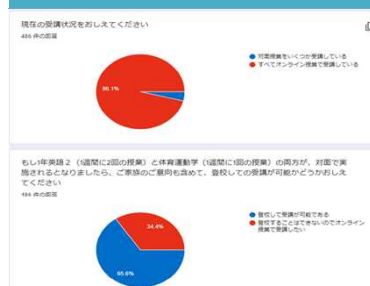
授業形態は、学生の声を聴いて

- ・1年次生にアンケート調査を実施したところ、**約3分の2**の学生から**授業を対面形式でも受けられるように欲しい**との意見が寄せられた。
- ・一方、約3分の1の学生からは登校に対する不安などから、**オンライン授業継続の意見が寄せられたことにも十分な配慮が必要**と考えられた。そこで、双方のニーズに対応する授業運営を行っている。

ひとりひとりの悩み、大学がしっかり受け止めます

- ・4月以来、2000件以上のオンライン相談が寄せられ、そのひとつひとつに丁寧に回答。**ひとりの学生も取り残さない**対応。

学生へのアンケート結果より



面接と遠隔の併用授業



※文部科学省において、大学の取組内容を聞き取りの上作成。¹

コロナ禍の中で学生の理解・納得を得るための大学の工夫例②

明治大学

(東京都・私立大学)

コロナ禍でも「つながる」取り組み

ご父母も大学の一員として

- ・国内47都道府県および海外4カ国地域で組織される父母会の皆さまと心を通わせていたい。現地での懇談会がかなわない中、**「父母Zoom懇談会」「就職講演会」「オンライン父母交流会」**など半年間で**30回以上**のオンラインイベントを実施した。
- ・学生・教職員が一体となって取り組む感染防止策や大学の現状を、画面越しながら、**学長自ら**が丁寧に説明を繰り返す。ご父母の皆さまに、大学が取り組む行動指針を踏まえ、安全・安心・健康な**デジタルで「つながる」父母会活動**に尽力してもらっている。

自宅からでも多様な相談

- ・多様な不安を抱える学生のために、オンラインによる相談体制を学生相談室やレインボーサポートセンターが構築。**心身の健康や交流のためのオンラインイベント**を半年間で**約40回**開催。HPから**メッセージ動画**等の情報発信。教員、カウンセラー、精神科医などが最大限サポート。

就職相談は、オンラインで何度も何度も

- ・就職支援として、5月から、1対1の**学生との個別相談**をオンラインで実施。**8,200件**にもおよぶ。(12/8時点)
- ・エントリーシートの添削、模擬面接など、就職活動に関わる相談であれば何でも受け付けている。
- ・週に1回、就職活動のポイント解説や、チャットで寄せられた参加者の質問に相談員が答える、**オンライングループ相談会**を実施。1回あたり最大500名が参加可能。



山梨県立大学

(山梨県・公立大学)

学生に寄り添い、不安や疑問を解消する取組

1年生を対象としたオンライン座談会の開催

- ・大学生活を経験したことのない1年生を対象に、**悩みを共有する場、横のつながりを作る場**として大学主催でオンライン座談会を開催。
- ・授業や履修のことだけにとどまらず、大学生活全体やアルバイト、サークル活動について**不安や疑問を質問し合い、解消していく学生たちの姿**が印象的。
- ・今回の実施を踏まえ、**継続した取り組み**として学内の臨床心理士と協力し、**テーマ別イベントを1月から実施**する予定(県大ほっとカフェ)。
- ・県大ほっとカフェでは、**すべての学生を対象**として、大学からの情報発信や**学部・学年の枠を超えた交流**ができるよう、上級生との交流やゲームなど、**参加した学生の要望を踏まえて、ともに作り上げていくイベント**とする。



参加した学生

司会進行する職員

コロナ禍の中で学生の理解・納得を得るための大学の工夫例③

国士舘大学

(東京都・私立大学)

学生目線で多様なニーズに対応

多様なニーズへ対応できる、授業の質的向上を追求

- ・教育能力向上をテーマとしたシンポジウムを、定期的にオンラインで開催し、各回、教職員が約160名以上参加。学生や保護者の方々から寄せられた日々の問合せを分析し、多様なニーズに対応できる授業の在り方を追求している。
- ・学部毎の取組みとして、学生へのサポートとして上級生による相談窓口やツイッターの開設、オンライン交流イベントの開催などを行い、学生間の交流に努めた事例などが報告され、教育の質の担保だけでなく学生に寄り添い不安を解消する取組が学内共有された。

学生の声を受け止め寄り添う総合相談窓口の開設

- ・学修、学生生活、人間関係、進路など多岐にわたる相談を受け付ける「総合相談窓口」を開設（Web化）
- ・相談内容に応じて、面談対応部署や配慮内容を加味して、適切な面談対応者をマッチング。
- ・「総合相談窓口」とすることで、従来どこに相談していいかわからず相談に至らなかった潜在的な学生のニーズを発掘し受け止める。
- ・相談内容や対応方法を蓄積することで、より一人ひとりの学生に寄り添った支援の対応検討につなげている。

「1年生交流会」の実施

- ・感染防止対策を徹底したうえで、学部毎に6日間の「1年生交流会」を各キャンパスで実施。学生同士で連絡先を交換したり、レクリエーションを通じて交流を深めたりと、学生調査で課題として見えた「横のつながり」を構築する機会となった。参加した学生からは「学内の施設や研究室を実際に見たことで入学した実感がわいた」との声があがった。



「1年生交流会」の様子

東京工業大学

(東京都・国立大学)

「チーム東工大」による教育・学生支援

感染防止策を講じた実験科目の実施

- ・前学期に登校できなかった1年生のために夏学期間に実験科目を実施した。アルコール消毒、マスク着用、換気した部屋で2m距離をとり、1人で実験した。実験の授業をすることで、理工系の大学生らしい実感を味わえる機会を作った。



教職員によるWelcomeチームで新入生支援

- ・4月1日に教職員による新入生Welcomeチームを開設。Zoomによる新入生オリエンテーション（98.5%参加）、メール相談受付（7月中旬まで約2600件）を実施。5月に実施したアンケートでは、66%の新入生が東工大の一員と感じるようになったと回答。その後もチームメンバーの学修コンシェルジュ（困りごとの解決支援）が、9月にオンキャンパスクイズラリーを実施するなど学生が大学とつながる機会を作っている。

浜松医科大学

(静岡県・国立大学)

感染対策を講じながら実習等を例年通り実施

学長・理事が注意喚起し、臨床実習を例年通り実施

- ・ソーシャルディスタンスの確保、十分な換気など、三密を回避した上で体育館に該当学生を集め、学長・理事から臨床実習にあたり、感染対策等について医療人としての心構えを徹底した。
- 全学生の発熱や体調不良を届け出させ、保健管理センター、感染対策室、学務課をはじめとする教育関係者で毎日情報共有し、個別に学生対応すると共に、感染者の早期発見に努めている。現在のところ関係教職員等の協力を得て、臨床実習を例年通りに実施している。



※文部科学省において、大学の取組内容を聞き取りの上作成。3

コロナ禍の中で学生の理解・納得を得るための大学の工夫例④

宇都宮大学

(栃木県・国立大学)

学長自らが学生や保護者に熱意・誠意を持って説明

学長・副学長等による各地域での学生・保護者ガイダンスの実施

- 東北・関東・中部15県を対象に、**学長・理事等が各地域を回って、学生・保護者に新型コロナウイルス感染症への対策や対面授業の方針等を説明**した上で、個別面談を実施した。大学との繋がりを実感し、不安が解消されたとの感想が多く聞かれた。

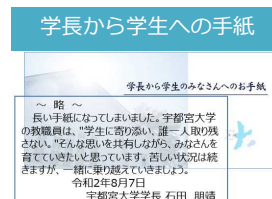


全新生へ対面でのエール発信

- 対面授業に学長が出向き、全ての学部で新生入生にエールを送った。

学長の手紙を公式HPに掲載、全学生の保護者に郵送

- 学長からの手紙や動画をホームページで配信し、学生に授業や学生支援の説明を行うとともに、**全保護者に資料を郵送し大学の状況を説明**。



前期成績表の手渡し交付、奨学金の手渡し給付

- 前期の成績表は、**学生のケアを考慮し、来学可能な学生に対し指導教員から対面での修学指導のもと配布**した。
- 学長自らが先頭に立ち、本学独自の奨学金を学生に手渡してエールを送った。

学生ピアサポーター制度の実施

- 上級生が1年生数人のグループとオンラインおしゃべりサロンを行う学生ピアサポーター制度を実施。



課外活動再開に向けた意見交換

- 活動再開を望む課外活動団体代表者と学長が意見交換を実施**。学生の声に耳を傾けるとともに、大学の方針を丁寧に説明し理解を求めた。感染防止策を徹底したうえで、一部団体の条件付き活動再開を容認。

関西大学

(大阪府・私立大学)

大規模校ながら、議論を重ねて対面授業を拡大

戸惑う学生・教職員に徹底支援

- 教育開発支援センターにて、4月1日～7月3日までの間、約50回にわたり、オンライン授業に対応するための教員向け相談会・学生向け講座を開催（延べ参加者数約2,000人）。
- 退学者を1人も出さないために**継続的な修学支援**を4月から展開。8月には第2弾支援として夢や目標に向け、真摯に取り組む学生を支援する“**関大生未来支援プロジェクト**”を展開。
- 新たな学生生活に不安を抱える新入生に対して先輩学生が「なんでもオンライン相談」を通じて、新入生の悩みを解決。

学内の対策本部会議を中心に徹底議論

- 4月20日から春学期授業（オンライン）を開始。
- 緊急事態宣言解除後からは、**対面授業の再開**を学長がいち早く提案し、学内の対策本部会議を中心に粘り強く議論。
- 春学期に実施したオンライン授業の現状と課題を把握すべく、7月に全学生へのアンケート調査を実施。
- 8月上旬には秋学期授業を原則として対面授業とする基本方針を決定。その結果、**秋学期は8割以上の授業科目を対面で実施**。
- 教室は、履修者数に基づいて、原則として収容定員の2分の1未満で配当。
- 学内には遠隔授業の受講や充電可能な自習室を確保。
- 対面授業を受講できない学生には申請に基づき、オンデマンド受講等の配慮。



※文部科学省において、大学の取組内容を聞き取りの上作成。

コロナ禍の中で学生の理解・納得を得るための大学の工夫例⑤

東北大学

(宮城県・国立大学)

新生の不安や悩みに寄り添ったきめ細かな対応

感染防止策を講じたオリエンテーションや始業式

- ・後期開始前に1年生オリエンテーションを実施し、学生間の親睦を深めるため、1年生自己紹介及び先輩学生も交えたアイスブレイクを実施。また、3密を避けながら体育館で後期始業式を実施し、**学生が大学の行事に参加する機会を確保。**



学生一人ひとりへのきめ細かな相談対応

- ・全学生にアドバイザー教員を配置するとともに、**学生ピアサポーター制度（在学生在がピアサポーターとして新生にきめ細かなアドバイスを行う制度）を創設し、**全ての新生に先輩学生から修学指導を行っている。

大阪大学

(大阪府・国立大学)

新生歓迎イベントを開催し、総長が語りかけ

新生交流会の実施

- ・入学以降、ほとんどキャンパスに来る機会がない学部新生らの不安や孤独感を解消し、キャンパスの雰囲気を感じてもらうための取組として、**新生交流会（ウエルカム！阪大）を実施。**
- ・交流会は、6月中～下旬にかけて10回実施。約1,000名の学生が参加し、西尾総長と学生の懇談や、大阪大学の紹介、新生同士の交流会等が開催された。**参加した学生からは「ようやく阪大生になれた」との感想があった。**



大阪府立大学

(大阪府・公立大学)

コロナ禍における学修継続のための支援

感染対策を講じた上での図書館運営

- ・**学生からのニーズの高かった大学図書館**について、入館時に利用者の健康状況のチェック、マスク着用、手指消毒等の協力を呼び掛け、館内の3密を避けるため、座席数を減らす等の**感染対策を講じた上で開館。**
- ・また、非来館型サービスとして、**貸出図書や複写資料の郵送サービス、オンラインレファレンス等も実施。**



山口県立大学

(山口県・公立大学)

チューター制度等による相談体制の構築

チューター制度の活用による学生支援

- ・各学科にチューター制度を設置しており、小規模大学の良さを生かしたきめ細かい学生支援を実施。学内連携により、学生一人ひとりに寄り添った相談体制を構築。

学内連携による支援

- ・キャリアサポートセンターでは電話相談や遠隔プログラムを提供。
- ・健康サポートセンターでは、全学生対象の健康調査を実施し、要支援学生への積極的な支援を展開するなど、健康チェックや健康相談、メンタル相談事業等を強化。



※文部科学省において、大学の取組内容を聞き取りの向上成。5